

評価委員会総合評価

研究課題名：シームレスな気象予測の災害・交通・産業への応用に関する研究
評価委員

委員長：岩崎 俊樹

委員：沖 理子、小畑 元、木本 昌秀、三枝 信子、佐藤 薫、田中 博、
坪木 和久、保坂 直紀

評価年月日：令和3年1月25日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本課題は、気象予測の研究を災害・交通・産業に応用するという新しい課題であるが、順調に計画が進んでおり、分かりやすい成果が挙げられている。研究の成果は十分に出ており、生活に身近に感じられる段階まで落とし込むことが出来ていると感じられた。

副課題1の領域気候モデルによる再現結果の解析から様々な現象に関する知見が得られている。副課題2について、マルチセンターアンサンブル手法の実用化、台風予報楕円の検討などは印象深く、気候変動と台風の関係について、日本付近に着目することで、台風リスクの増大を観測データからあきらかにされた成果は素晴らしい研究成果である。副課題3について、気候・気象リスク管理の需要調査、需要開拓（気象ビジネス）、具体的な連携検討については地道な努力が必要で、アンケートや聞き取りを活用したことは評価できる。具体的な提携先とのアウトカムについても分かりやすい形で示すことができれば、さらに成果を強調できると思われる。

新しい課題であるにも関わらず、十分な成果が挙げられていることから、研究の手法についても十分効率的であると考えられる。現時点で計画は妥当であり、成果も十分に見えていることから、提案された研究計画を進めるべきであると判断する。

なお、今後の研究では、ユーザ自身がより有機的に気象情報を利用してそれぞれの目的に沿った情報創出ができるような環境構築を目指した研究を推進していただきたい。その他、以下の指摘事項を踏まえつつ引き続き継続してほしい。

- ・ 副課題1は、モデル改良や解析手法に関わる研究に留まらず、今後ルーチン化される気候データセット 20XX のデザインへの貢献を意識していただきたい。asuca 地域気候モデル化は、見通しがよく見えないところがあったので引き続きご努力願いたい。
- ・ 副課題3の気候リスク管理の研究では、農業や生態系については他研究機関の先導も望める分野であるが、国土交通省の重点施策に含まれる分野（例えば都市計画、大規模工場用地、発電施設、将来の交通インフラの適正な立地など）については、気象研究所をはじめとする国交省の諸研究所に研究プロジェクトを先導して頂くことで大きな発展と将来の社会実装が見込めるのではないかと期待される。気象研究所で直接対応されるだけでなく、関連する公益法人や、民間シンクタンクのうち政策立案を支援する研究所などの団体との協働についても、有用であれば検討していただければ複数の可能性が開けるのではないかと思う。
- ・ 再生可能エネルギーを中心に今後エネルギー革命が世界的に推進されると予想されるので、産官学連携で共有できる気象データの整備と効率的な公開が必要となるであろう。長期再解析データを含む気象観測データは原則公開とするポリシーを明確に打ち出して、ユーザが簡単にアクセスできる利用システムを構築して頂きたい。
- ・ 出力データの利用者が使いやすいよう、インターフェイスを念頭において研究を進めてほしい。
- ・ 他省庁、他の研究機関と同種の研究になっていないかを精査すべきである。